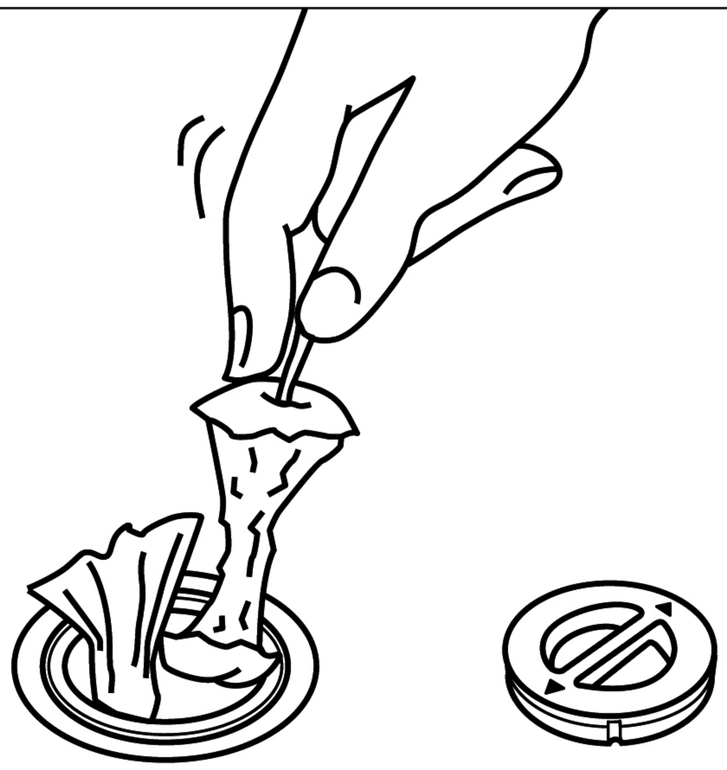
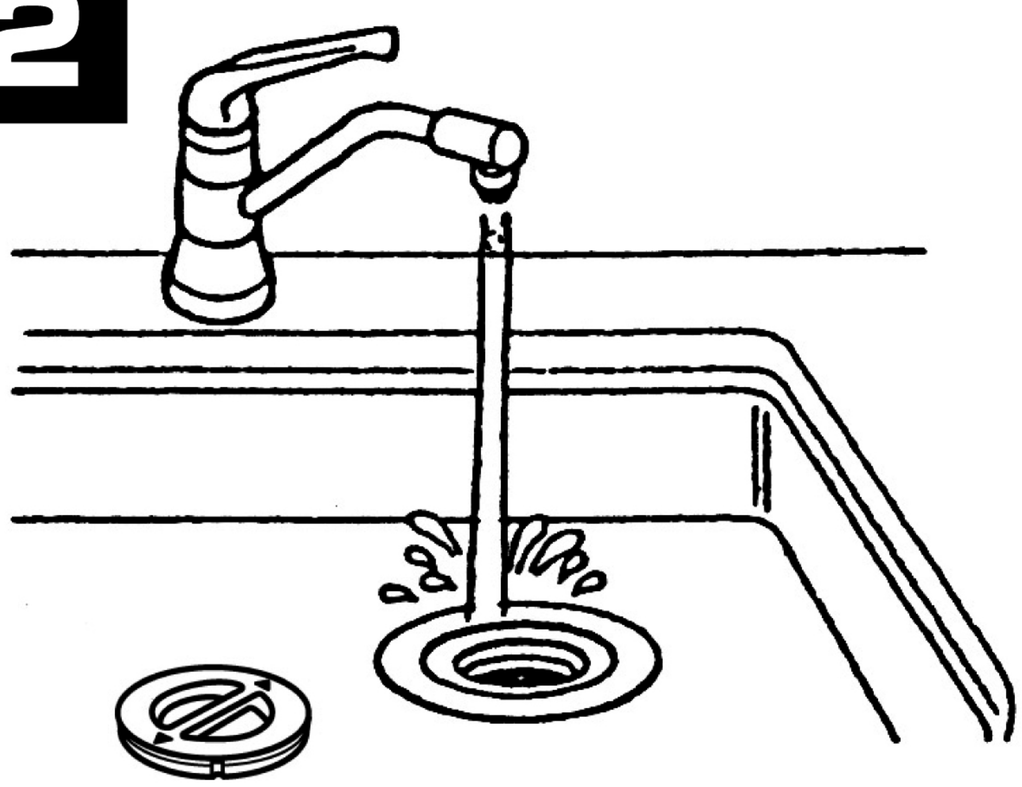
●操作

1



生ごみを投入します。

2

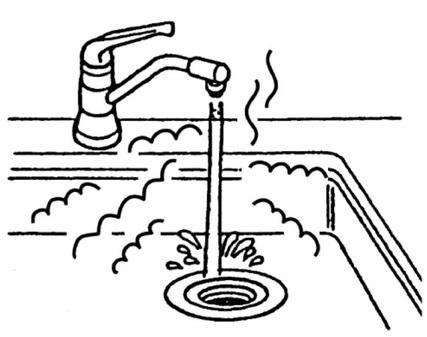


水栓を開き毎分８リットル（蛇口全開の半分程度）の水を流します。

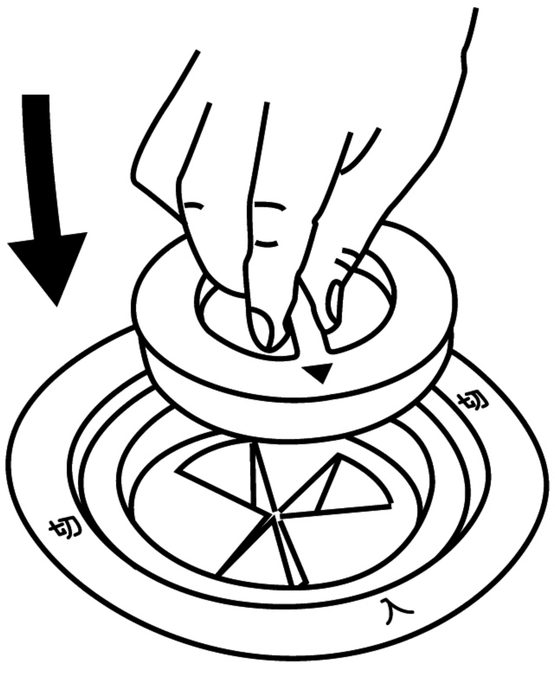
水量が少ないとディスポーザ内部に生ごみが残り、異臭の原因になります。また配管の詰まりの原因にもなります。

⚠ 注意

●60℃以上のお湯を連続的に流さないでください。配管の変形・劣化の原因になります。



3



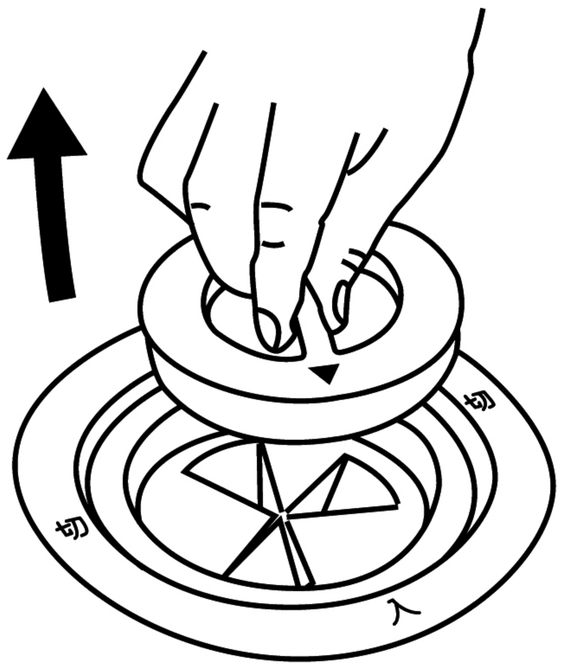
投入口にフタスイッチを「入」に合わせて入れてください。運転が開始されます。

オプションの手元スイッチを接続している場合は手元スイッチを「ON」にして下さい。
確実にフタをしないと、運転しません。

⚠ 注意

●運転中に金属音や非常に大きな音がした場合は、ただちにフタをはずじて、運転を停止してください。運転を続けるとディスポーザの故障の原因になります。

4

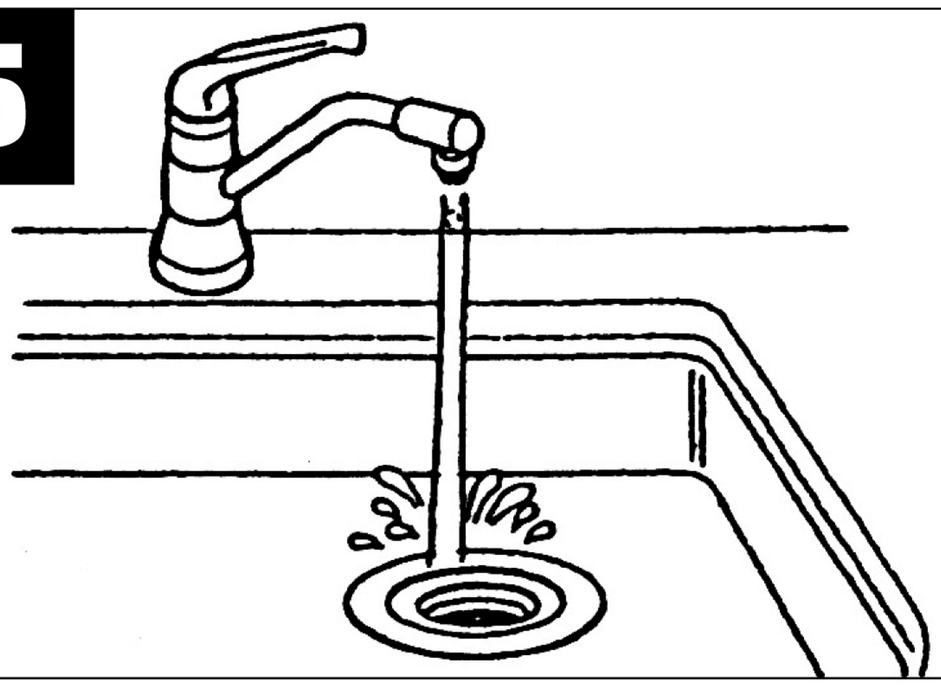


ディスポーザの運転音が静かになりましたら、フタスイッチをはずして運転を停止してください。

生ごみの破砕は終了しています。

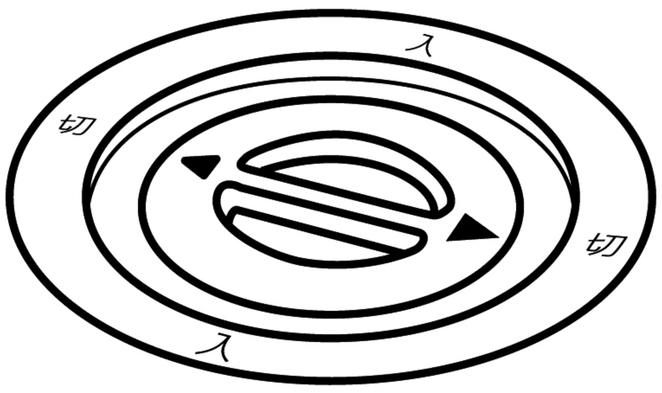
※始動後５分間経過すると、タイマ機能により運転が自動的に停止します。再び始動する場合は、フタスイッチを外して再度「入」に合わせて下さい。

5



配管の詰まりを防ぐため、運転を停止した後も、約10秒ほど水を流してから水栓を閉めてください。

6



使用しない時は、フタスイッチを「切」の位置に合わせて、入れておいてください。

⚠ 注意

※フタスイッチには磁石が内蔵されています。

フロッピーディスク・時計・医療機器等、磁石の影響を受けるものを近づけない様にして下さい。

※誤操作を避けるために、シンクフランジ近辺に磁力を持つ物を近づけないで下さい。

⚠ 警告

ディスポーザの使用にあたっては、次のことを忘れないで下さい、

- ディスポーザの中には絶対に手を差しこまないで下さい。
- ディスポーザに詰りが起きたり、モーターの保護器が切れたりしたときには、必ずまず電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、詰りを除去し、リセットボタンを押して下さい。
- 熱した油やグリース類、化学薬品などは絶対に流さないで下さい。

運転上の注意

●処理中には蛇口全開の半分程度の水を流し、処理後も10秒間流したあとで水を止めて下さい。
●処理の後や流し台の排水の後には水を流して下さい。
●処理が終わる前にディスポーザの運転を停止したり水を止めることは避けて下さい。

●次の生ごみは下記の要領で投入口に入れてください。

メロンの皮・スイカの皮など、厚いもの
（粉砕室からトラップへ排出されない恐れがあります）
⇩
5cm程度に刻んで投入してください。

生魚の皮・鳥の皮・大きな果実の種など
（正常に粉砕できないことがあります。）
⇩
多量に投入しないでください。

軟らかい餅などねばりつくもの
⇩
少しずつ他の生ごみと混ぜて処理してください。

●投入口に、次のような物を多量に入れないでください。食器洗いに使用される量や、鍋などに付着している油量程度は支障ありません。

●サラダ油　●天ぷら油など　●台所用洗剤
●酒類　●薬品類（殺虫剤、除草剤など）

※処理槽で正常な処理ができなくなる原因になることがあります。

●投入口に、次のような物を絶対に入れないでください。

●金属　●プラスチック　●陶器類
●紙　●木類　●たばこの吸いがら
●ラップ　●ビニール　●ゴム類など
（●熱湯　●熱い天ぷら油　●熱いカレー等の高温のもの　●多量の生クリームやマヨネーズ　●サラダ油や天ぷら油等の廃油　●大量の酸　●アルカリ性洗剤）

●かたい生ごみや強い繊維質のもの
●サザエ, アワビ, ハマグリ等の貝殻　●かに類の殻　●大きな魚の骨　●多量の生米　●調理前の固い餅　●桃や柿などの硬い種　●タケノコや栗の皮　●トウモロコシの皮や芯　●多量の枝豆の皮　●生け花　●パイナップルの芯　●バナナのヘタ　●生魚の皮　●多量の卵の殻

※処理槽で正常な処理ができなくなります。また、故障や排水管詰まりの原因になることがあります。

日常のお手入れ（消臭方法、ヌメリ取り）

ディスポーザから異臭がするのは通常、流水の量が不足し内部の清掃が良く行われなかった結果、少量の油脂や残余物が蓄積している場合が多いので次の処理を行って下さい。

1．レモンの皮を１～２個分処理して下さい。
2．ディスポーザの電源を切り、フタスイッチの下のゴム製のスプラッシュガードの裏側を清掃します。その後、ディスポーザ本体内部の上部入り口を磨いて下さい。
3．流しに止水蓋で栓をしてぬるま湯を半分程満たします。そこに重曹（大匙４～５杯）を加えてかき混ぜ重曹溶液を作ります。ディスポーザのスイッチを入れて、蓋を外します。これで水はディスポーザ内部の隅々まで行きわたり、清掃が行われます。重曹がディスポーザの内部の汚れを除去します。
4．ヌメリがある場合は、角氷を５～６個ディスポーザに入れて破砕して下さい。

⚠ 注意

重曹が目に入らないように注意して下さい。

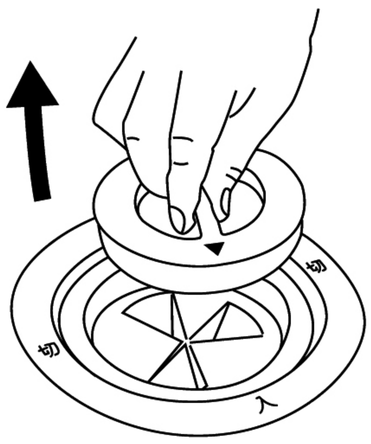
⚠ 警告　火災事故、感電事故、人身障害等の危険についてのご注意

電気器具をご使用の場合にはつぎのような基本的な注意事項を必ずお守り下さい。

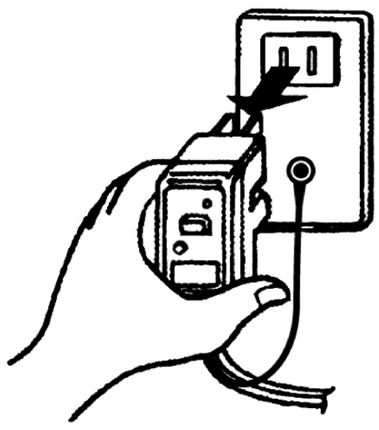
1．器具をご使用になる前に必ず取扱い説明書をお読み下さい。
2．ご使用中、子供が近くに居るような場合には、とくに注意して事故が起こらないようにして下さい。
3．指や手をディスポーザの中に入れないで下さい。
4．ディスポーザから異物を取り除く場合は、必ず電源プラグをコンセントから抜いて、長柄のドライバーかプライヤーを使用して異物を取り除いて下さい。異物がディスポーザ内部に噛み込んで取り出しにくい場合は、サービスレンチをディスポーザ底部の中心にあるモーターシャフト穴に差し込んで手動でいずれかの方向に回転させるとはずれます。
5．ゴム製のスプラッシュガード（水飛散防止）が劣化して、水滴のはねかえりや噴出の防止能力が落ちた場合には交換して下さい。
6．リセットボタンを押す場合には、必ず前もって電源プラグをコンセントから抜いて下さい。
7．アースに関するご注意。
- ●本機器は必ずアースして下さい。万一、機能不全や故障が発生したときは、アースは電流を地上に直接逃し感電事故の危険性を減じます。
- ●アース用導線を間違って接続すると感電の危険があります。

異物をかみ込んだ場合の解除方法

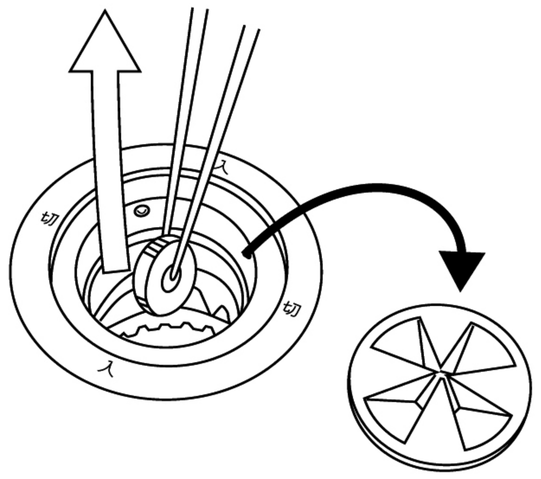
1．水を止めてから、フタスイッチを「切」にしてください。



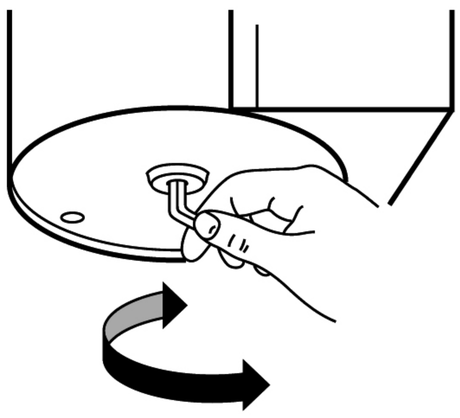
2．漏電保護プラグを電源コンセントから抜いてください。

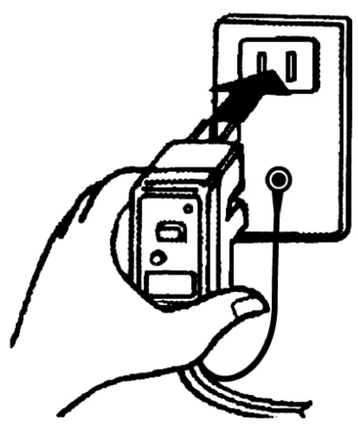


3．フタスイッチとスプラッシュガードをはずし、内部の回転板が停止していることを確認してください。その後、かみ込んだ異物を、菜箸などで取り除いてください。

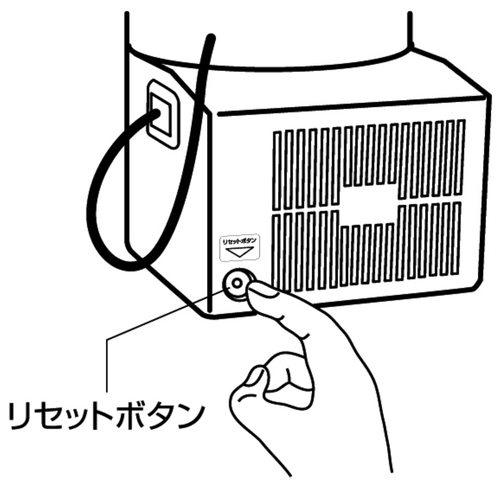


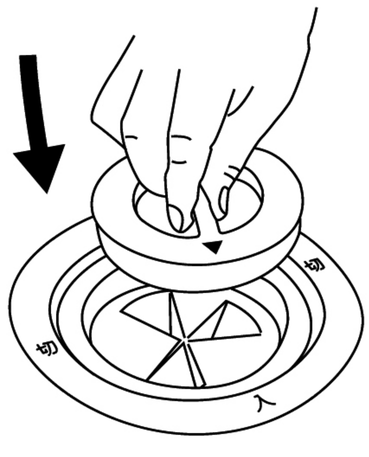
4．異物の確認ができない場合は付属のサービスレンチを本体下部の挿入口に差し込み、レンチが左右に自由に動いて数回転できるようになるまで動かします。その後サービスレンチを外します。





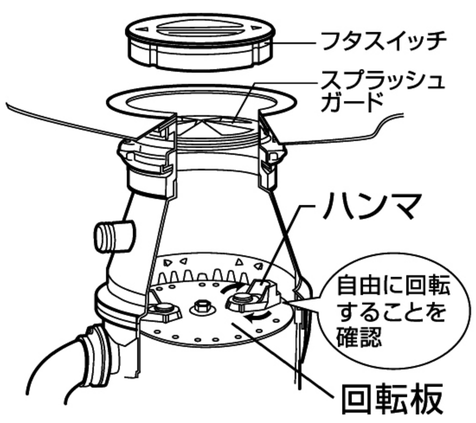
5．かみ込んだ異物は菜箸などで取り除いてください。その後、スプラッシュガードとフタスイッチをもとの位置「切」にもどし、電源プラグをコンセントに差し込み、リセットボタンを押してください。



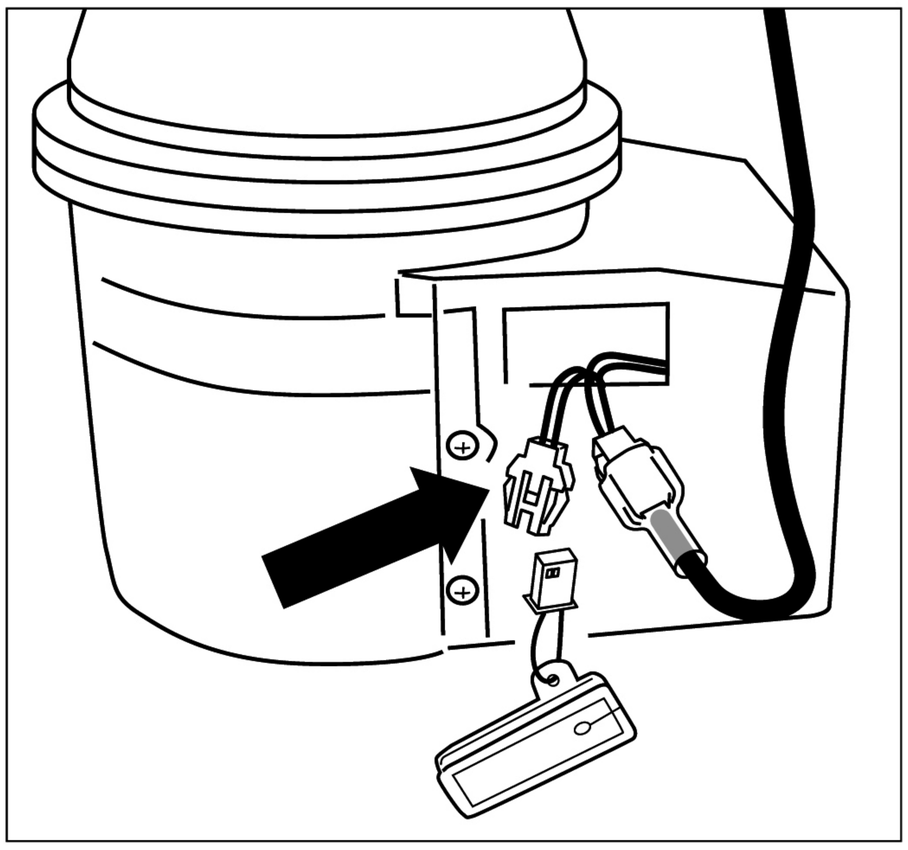


6．再度、運転して下さい。

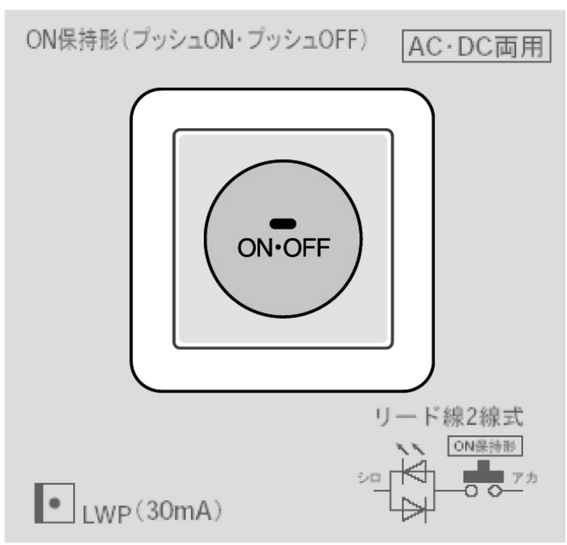
故障と思われる時の対応

症 状	原 因	処 置
●フタスイッチを「入」にしても運転しない。	●停電していませんか?	停電の復旧を待ってください。
	●電源プラグが電源コンセントに差し込まれていますか?	電源プラグを電源コンセントに確実に差し込んでください。
	●漏電していませんか? (漏電表示ランプが点灯している)	電源プラグのリセットボタンを押します。それでもランプが点灯するようであれば漏電していますので、サービス連絡先に連絡してください。(裏表紙)
	●制御部の黄色いリセットボタンを押しましたか?	30分程度待ってから黄色いリセットボタンを押してください。
	●フタスイッチが投入口に確実に取り付けられていますか?	フタスイッチを確実に取り付けて、再度フタスイッチを「入」にしてください。
●うなり音はするが起動しない。 (モーターが回転していない状態)	●粉砕室に異物がかみ込んでいませんか?	『異物をかみ込んだ場合』を参照してください。(12ページ)
●通転中にモーターから異常音がしたり、異常な振動がある。	●シンクにためた水を流しながら運転していませんか?	フタスイッチを「切」にして、運転を止めてください。ためた水を完全に流し終えてから運転してください。
	●粉砕室に異物がかみ込んでいませんか?	『異物をかみ込んだ場合』を参照してください。(12ページ)
	●回転板上のハンマが固着していませんか?	回転板上のハンマに異物が固着している場合にも、大きな振動が発生することがあります。ハンマが自由に回転するかどうか確認して下さい。自由に回転しない場合は、原因となる異物を、菜箸等を用いて取り除いて下さい。 
●排水が悪く水が溜まってくる。	●粉砕室に粉砕しにくい物が残っていませんか?	水を流さず、再度フタスイッチを「入」にしてください。
	●トラップ部に粉砕物がつまっていませんか?	市販の大型真空式パイプクリーナー(またはラバーカップ)をご購入のうえ、生ゴミ投入口に合わせ、排水するまで上下にゆっくり動かします。それでも排水できない場合はサービス連絡先にご連絡ください。
●運転が途中で止まる。	●長時間連続運転していませんか?	長時間運転するとモーター保護のため運転が停止する場合があります。数分間程度待ってからリセットボタンを押してください。
●排水が悪く水が濁ってくる。	●フタスイッチが投入口から外れていませんか?	フタスイッチを確実に取り付けて、再度「入」にしてください。
●水漏れする。	●シンクアダプタ部、トラップ部、防振接ぎ手部が緩んで漏水している。	サービス連絡先にご連絡ください。
	●トラップ部が緩んで漏水している。	サービス連絡先にご連絡ください。

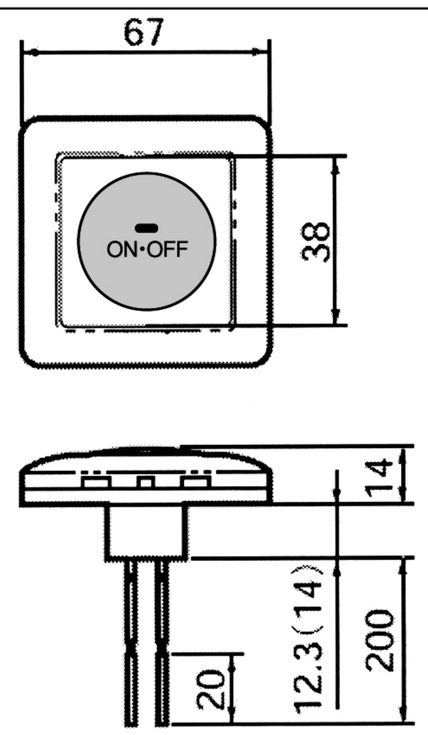
手元スイッチ取り付け方法　（別売り）



①外側のコネクタに差し込んであるソケットをはずして下さい。



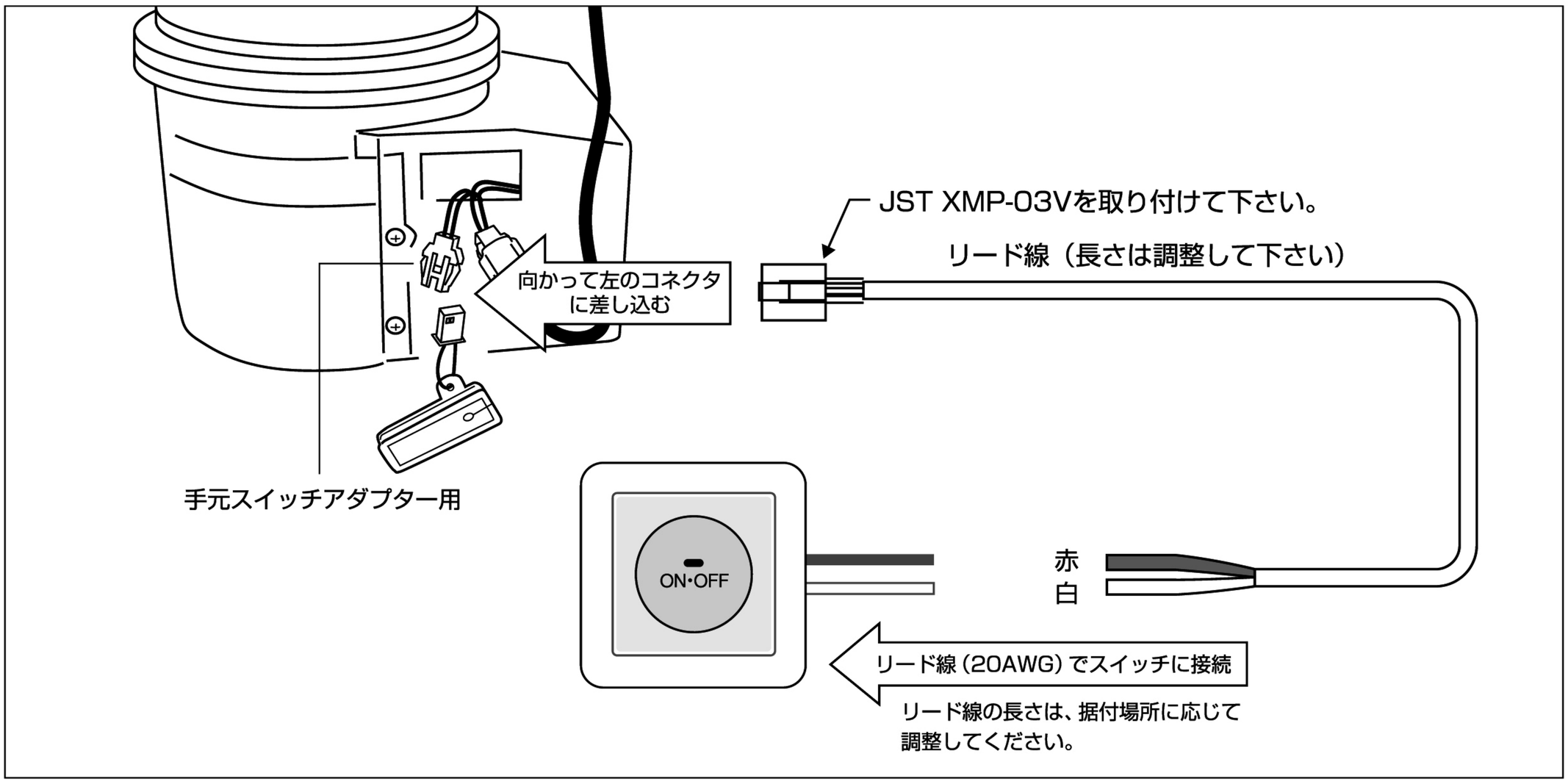
○WS66412
埋込ミニ押釦スイッチ（ON保持・微少電流対応形）
（パイロットランプ・　防沫形プレート・リード線付）
12V 30mA



（単位 mm）

②ＯＮ保持型ＤＣスイッチを用意してください。
（推奨品：松下電工株式会社　埋込ミニ押釦スイッチWS66412）

③コネクタ JST　XMP-03Vと、リード線 AWG20～24 300VDC UL1007を接続して下さい。長さは現場に応じて調整します。



④②で用意したスイッチと③のリード線で接続して下さい。コネクタをディスポーザのコネクタにしっかりと差し込んで下さい。コネクタへの差し込み後は、コネクタ部を防水キャップで覆って下さい。

⑤手元スイッチ動作説明

手元スイッチを接続しますと

- ●手元スイッチを押して、電源をONにすると、待機中となり、手元スイッチのランプが点灯します。
- ●フタスイッチを「入」にすると、ディスポーザの運転が開始されます。
- ●フタスイッチを「切」にすると、ディスポーザの運転が停止します。
- ●手元スイッチを押して、電源をOFFにしてディスポーザを停止することも出来ます。
- ●運転開始後、５分経過するとタイマ機能によりディスポーザは停止します。